

番号	4	名称	日比谷公会堂・市政会館
----	---	----	-------------

指定日	平成 15 年 6 月 9 日	所在地	日比谷公園
設計者	佐藤功一	竣工	昭和 4 年 (1929)



歴史・文化的特徴

大正 9 年 (1920) に東京市長に就任した後藤新平は、東京市政のための中正独立の調査機関設置を構想し、大正 11 年 (1922) に東京市政調査会を設立。安田財閥・安田善次郎の寄付を受け、日比谷公園内に公会堂を付置した会館を建設した。これが、現在の市政会館と日比谷公会堂である。同時期に完成した両国公会堂とともに震災後の復興のシンボルともなった。日比谷公会堂は日本で最初の本格的なコンサートホールである。

東京都選定歴史的建造物に選定されている。

意匠・構造の特徴

全体が茶褐色のタイルで覆われたネオ・ゴシック様式で、建物中央に時計塔がそびえたつ。外壁にせり建つ柱が垂直性を強調し、一部の窓に使われた黄色テラコッタが、垂直性を強調したデザインにアクセントをつけている。

外装タイルは、震災復興期特有のスクラッチタイルが使われている。

市政会館は国会通りに面している。公会堂は日比谷公園をアプローチとし、主出入口と 2 階への階段・露台があって、コンサート後や休憩時間に音楽の余韻が楽しめた。

周辺景観との関係

日比谷公園の南側に位置し、北側公会堂のバルコニーは、公園内の庭園と一体でデザインされている。角地にあつて、両方向の大通りの見通しがよく、時計塔のある建物は、周囲に高層ビルが多くなった今日においてもランドマークとして親しまれている。